

事項	<p>水稲代かき同時土中点播栽培における適正は種深確保のためのは種直後の露出種子割合</p>		
ねらい	<p>水稲直播栽培において出芽・苗立ちを安定させるためには、適正な深さには種することが必要であるが、代かき同時土中点播ではは種時の打込み強さを同一に設定しても、土壌条件やは種時の水深によっては種深に差が生じるため、打込み強さの調整が必要となる。その調整のための指標として、は種直後の露出種子割合が利用できることが明らかとなったので、参考に供する。</p>		
指導参考内容	<p>1 は種直後に田面を真上から観察し、種子の一部分でも確認できる露出種子の割合から、土中1cm以内の適正な種深にある種子割合を推定できる。</p> <p>2 適正な種深を得るためには種直後の露出種子の割合は、40～60%である。 露出種子の割合が60%より高い場合は打込み強さを強く、40%より低い場合は弱くし、露出種子の割合が40～60%になるよう打込み調整ダイヤルで調節する。</p> <p>3 は種直後の露出種子の観察は、は種時の水深がおよそ1.5cm以内であれば可能である。</p>		
期待される効果	<p>代かき同時土中点播栽培での苗立ちが安定化する。</p>		
利用上の注意事項	<p>1 は種機の設定及びカルパーコーティング条件等によりは種粒数が異なることから、は種前に株当たりは種粒数を把握したうえで、株当たり露出種子数の目安を設定する。</p> <p>2 露出種子の観察は、枕地部分を避けて行う。</p> <p>3 目安となる露出種子の割合は、乾籾重の2倍量でカルパーコーティングした種子を使用し、は種後直ちに落水管理を行った場合のものである。</p>		
担当	青森県農業試験場 栽培部	対象地域	湛水直播栽培対象地域
発表文献等	<p>平成13～14年度 青森県農業試験場試験成績概要集</p>		

【根拠となった主要な試験成績】

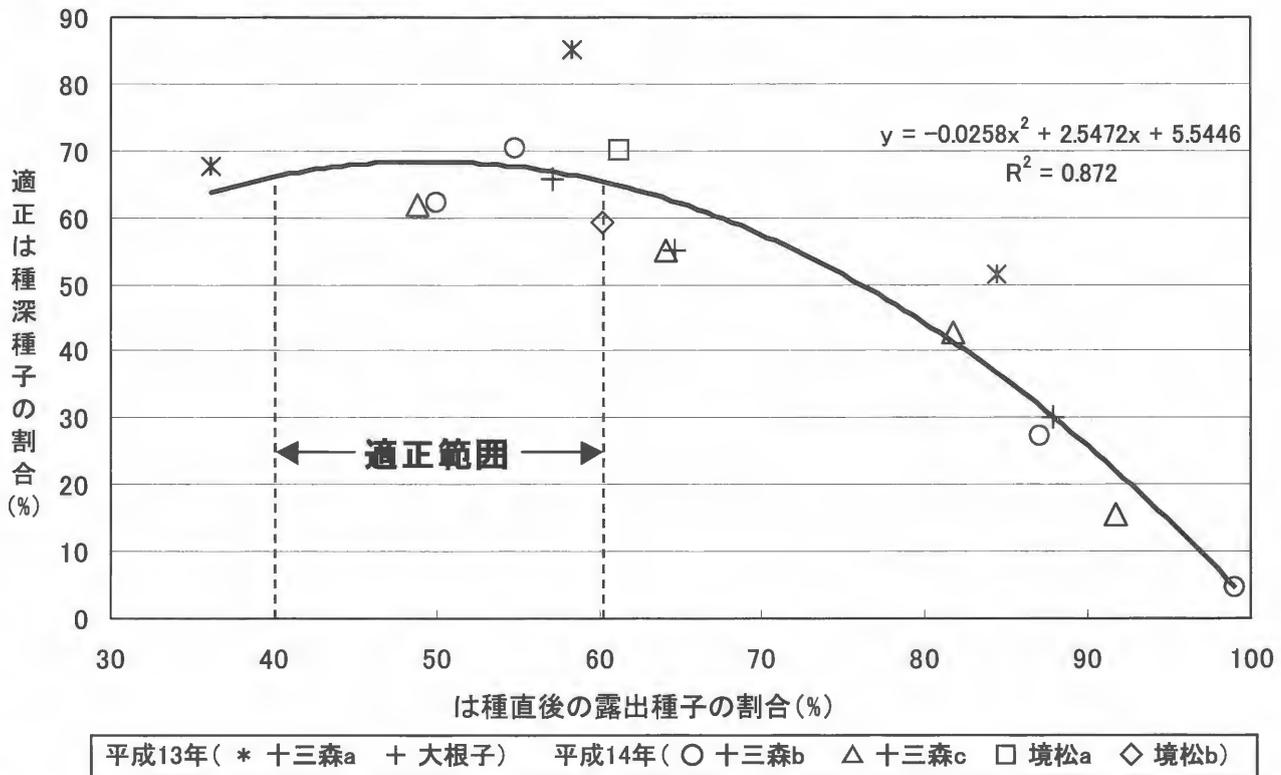


図1 は種直後の露出種子の割合と適正は種深種子の割合との関係 (平成13~14年 青森農試)

- (注) 1 は種直後の露出種子は、田面を真上から観察し、完全に土中に埋没した種子以外の、一部でも種子が確認できるものとした  
 2 は種深度の調査は、は種後落水期間中、ほ場に軽く足跡が付く程度に乾燥してから調査した  
 3 適正は種深種子は、落水期間に行ったは種深調査時に、土中1cm以内にある田面に露出していない種子とした  
 4 試験場所及びは種条件

試験場所	土壌型	は種時の水深	カルパー種子粉衣
十三森a、b、c (黒石市十三森)	中粗粒灰色低地土灰褐系	a・b : 0.4cm c : 1.5cm	乾籾重の2倍量
大根子 (田舎館村大根子)	中粗粒灰色低地土灰褐系	0.3cm	〃
境松a、b (黒石市境松)	表層腐植質多湿黒ボク土	a・b : 0.5cm	〃

表1 は種時の水深がは種直後の種子観察に及ぼす影響 (平成14年 青森農試)

は種時の水深 (cm)	は種直後の種子の観察	
	可否	田面水の状況
0.4	○	は種機通過後、田面にほとんど滞水せず
1.5	○	は種機通過後、数分してから田面に濁水が滞水する
2.5	× (困難)	は種機通過後、5~10秒で田面に濁水が滞水する



写真1 は種直後の露出種子 (平成13年 青森農試)

- (注) 1 印: 露出種子  
 2 試験場所: 黒石市十三森  
 3 は種時の水深: 0.4cm  
 4 打込み回転数: 1000rpm  
 5 露出種子数/は種粒数 3/7=43%